

天理



天理教原典勉強会

8月30日～31日の2日間に亘り、天理教原典勉強会が開催され、全米から62名の参加者がありました。講師は、天理大学の東馬場郁生教授と、アメリカウエスト教会長の林孝彦先生がとめられました。11頁に詳細。

天理教アメリカ伝道庁

No.934

SEPTEMBER

2025



TenrikyoAmericaCanada.org



つらつらせんがく 熟々浅学



—「旬」について(1)—

先月末に教理勉強会を執り行い、無事に終えさせていただきました。講師の東馬場郁生・天理大学教授と林孝彦アメリカウエスト教会長を始め、準備やひのきしんに携わってくださった方々に厚く御礼申し上げます。

今月は「全教会布教推進月間」です。教会長のみならず教友の皆様には、にをいがけ、おたすけを意識して毎日をご過ごし、少しでも御教えを広める活動を心掛けていただければ嬉しく思います。また、来月26日には本部にて秋季大祭が執り行われます。その前日の25日には天理教青年会総会が開催されます。秋季大祭参拝、また青年会総会出席へと、一人でも多くの方におちばがえりしていただければと思っています。

さて、私たちは教祖年祭を「たすけの旬」、或いは「成人の旬」と聞くことがあります。ここで使われる「旬」は「時期」という意味であろうと思います。

しかし、教語的な意味をもう少し詳しく、明確に知りたいと思って、「旬」について調べてみました。

話を進める前に、この巻頭言の翻訳は難しくなるとお思いますので、翻訳者には先に謝っておきます。すみません。

「おふでさき」には「旬」は出てきません。第11号60のお歌に「しゆん」との文字配列がありますが、これは「たのしゆんでみよ」での一部分であり、「楽しんでみよ」との意味ですので「旬」とは関係ありません。

また、「みかぐらうた」にも、「旬」も「しゆん」も出てきません。

「おさしづ」には「旬」が使われています。そこで「おさしづ」ではどのように「旬」が使われているのかを確認したいと思い、「おさしづ索引」で「旬」の文字が含まれる項目を調べました。

「旬」の漢字が含まれている「おさしづ」は全部で212あります。「おさしづ索引」内には「旬」の漢字が使われている項目は全部で182あります。「おさしづ」に「旬」の漢字が使われている箇所は334箇所ありますが、しかし調べると、重なっている項目がいくつかありました。例えば、明治21年(1888)に「旬々道」と「時々旬々道」と2つ項目があります。どちらも明治21年5月8日(陰暦3月28日)夜の「おさしづ」に出ている、「おさしづ縮刷版巻一」の157頁11行目に見つけられるのですが、この2つの項目は同じ箇所を指しています。つまり、「時々旬々道」が、「旬々道」として項目に挙げられているか、「時々旬々道」として挙げられているかの違いです。そのような重複している箇所などを差し引きしますと、私が間違っていなければ、「旬」の漢字は「おさしづ」本文には全部で316箇所に見つかります(割書きにある「旬」は省いています)。

以下は、前述のような重複箇所を含めて書いてゆきますので、承知おきください。

「おさしづ索引」に「旬々(含:旬旬)」が含まれる項目がいくつかありますが、「旬々」は「おさしづ」に全部で124箇所に出てきます。

「旬」の漢字が多く出てくる年は明治23年(1890)で50箇所となっています。その次は明治24年(1891)の「おさしづ」に45箇所が使われています。

しかし、明治38年(1905)の「おさしづ」には「旬」は一度も使われていませんし、明治39年(1906)には1箇所のみです。明治36年(1903)には2箇所です。「旬」の漢字が使われていますが、重複しているので実際は1箇所のみです。明治35年(1902)は3箇所のみです。全体を見ますと、明治35年以降の「おさしづ」には「旬」の漢字の使われることが減っています。

天理教事典の「旬」の項目に、
「天理教の用語としては、旬は天理教の歴史において、物事が一時に、いわば顕在化する（問題化して解決されるべき）時を指す言葉として用いられている。また、「ふし」とか「旬々」（しゅんしゅん）とか「時旬」（ときしゅん）というの、旬とほとんど同じ意味である。」

（天理教事典第三版、440頁）

とあります。

「物事が一時に、いわば顕在化する（問題化して解決されるべき）時を指す言葉」とありますが、「旬」とは「人間が成人できる絶好の機会（時）である」と私は理解していて、「旬」をポジティブに受け止めるべきだろうと思っています。

先程も書きましたように「旬々」と使われていることが多く、天理教事典には「旬々」の項目があります。そこには、

「一般に旬とは、魚介、蔬菜、果物などがよくとれて味の最もよい時。転じて、物事を行うに適した時期（『広辞苑』）のこと。天理教の用語としても同様の意味に用いられる。ただ、天理教ではこれを重視し、旬というその物事を行うに適した時期をのがさず、対処することを望まれる。旬々と重ねて言う場合は、その最適の時期がくるごとに、その時期その時期の意味となる。」

（天理教事典第三版、442頁）

とあります。その意味するところは「時」とか「時期」です。

また、天理教事典には「時旬」の項目もあります。そこには、

「物事には、そのものに備わった時があると見られることから、自然の季節になぞらえて、これを「旬」（しゅん）と呼ぶ。これを人間の方から見て、「時」（とき）とも言う。時旬は、この点を強調している。一般には「旬」と言う。」

（天理教事典第三版、704頁）

とあります。「時旬」は特に「適した時期」を意味していて、「重要な時」とか「逃してはならない時」とも言えるように思います。

つまり、「時旬」とは「親神様がお与えくださった時」と悟るべきで、「私たちの信仰的な成人にとっては大切な時期」を意味しているのではないかと思います。

さて、ここから私が気になった「旬」を含んだいくつかの「おさしづ」を取り上げてみたいと思

います。

明治22年7月31日（陰暦7月4日）午前6時17分、「本席身上御障りに付願」に、

…日々種を蒔く、一つの種を蒔く。旬々の理を見て蒔けば皆実がのる。旬を過ぎて蒔けばあちらへ流れ、遅れてどんならん／＼、とんとどんならん。とあります。

種を蒔くのに旬を外してはならないことを意味しています。旬に合致した時に種を蒔けば全ての種が実ると仰せです。ですから、旬を外してはならないのです。

この後に次のお言葉が続いています。

話聞いて日々処、もう何年経ったら／＼要らん。一日の理が治まれば生涯の理というは、ちゃんど筆に知らせして一々話してくれるがよい。

この引用部分に関しては、それ以前の「おさしづ」の内容を含めて解釈しますと、頂戴した「おさしづ」は、なかなか理解できにくい、悟りにくいこともあるかもしれませんが、神の理を説いているのであるから、その時に心に治めることが大切である。それができれば、頂戴した「おさしづ」は生涯の理となる、という意味になると思います。そして、「おさしづ」をきちっと書き留めて、「おさしづ」を頂戴した者に理の説き分けをしてほしい、と諭されておられるようです。

明治23年7月22日（陰暦6月6日）、「榊井伊三郎普請一条押して願」に、

…旬が来たら放って置こうと言うても、放って置けん。何ぼしよと思ても、旬が来ねば出来ん。（中略）年々の理を以て旬という。旬々後々の事情、旬々が来る。旬と見たら運ばねばならんで。とあります。

この「おさしづ」では、望んでも「旬」が来ないと物事は進展しない、或いは成就しないが、望んでいなくても「旬」が来れば、それを実行することが大切である、と仰せられていることが分かります。「旬」とは、季節の春夏秋冬のようにやって来るのかもしれませんが。そして「旬」を逃さずに行動することが大切であると言えるのではないのでしょうか。（続く）

深谷 洋

立教188年8月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、一れつ人間の陽気ぐらしを楽しみに、日夜変わることなくお見守りくださいますお陰により、日々を無事無難に通らせていただいております御守護の程は、誠に有難く、勿体ない限りでございます。私共は朝夕怠ることなく御礼申し上げると共に、たすけ一条の道を、それぞれの持ち場立場の中で、心明るく通らせていただいております。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の八月の月次祭を執り行う日柄に当たりますので、只今より、ちばに心を結び、心尽くしの数々の物を供えて、おつとめ奉仕者一同心を一つに、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を待ちわびて参り集いましたよふぼく、信者一同と共に、本日は大勢の少年会員も参集して、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいます、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、少年会アメリカ団おつとめまなび総会を滞りなくつとめ終えさせていただきますことができまして、誠に有難うございました。将来の道を担う少年会員たちが、たすけの御用に励む立派なよふぼくへと成人できますよう、お育ての程をお願い申し上げます。

また、今月三十日と三十一日には、伝道庁にて教理勉強会を開催予定ですが、参加者達の成人の糧となり、滞りなく終えさせていただきますよう、お願い申し上げます。

更にはまた、来月は全教会布教推進月間ですので、教祖百四十年祭年祭活動の最終年として、一人でも多くのよふぼく、信者がにをいがけに励み、管内に御教えを広められますようお願い申し上げます。

私共は、教祖百四十年祭に向けての残りの年祭活動期間を、一手一つになって、陽気ぐらし世界実現に向けて、持ち場立場の役割において、にをいがけ、おたすけに邁進して、只今の時句に相応しい心の成人の姿を目指したいと存じます。何卒、親神様には、私共のこの真実の心をお受け取りくださいます、自由自在の御守護を賜り、至らぬところは幾重にもお仕込みくださいます、お連れ通りいただき、一日でも早く、世界の人々が御教えに基づいて暮らす世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

8 月月次祭神殿講話

ホープオブパシフィック教会長
丹羽 ハミルトン

只今は結構に8月のアメリカ伝道庁の月次祭をつとめさせていただきました。皆様と共に賑やかに、一手一つにつとめ終えることができました嬉しく思っております。

教祖は現身をお隠しになられる寸前までおつとめを急きこまれました。こんにち私達は脅される心配なくおつとめををつとめる事ができます。有り難い限りです。

本日は祭典講話のご命を頂きましたので、少しの間ご清聴願います。

話の前にこの場をお借りして、いつも伝道庁の祭典講話、又大切なイベントの録音に編集をして下さる井上君に感謝したいと思います。

グラント、いつもひのきしんありがとうございます。

先月、森下ケイ会長より素晴らしい祭典講話を聞かせて頂きました。ケイ会長の想いに添える話をさせていただければ幸いです。

ケイ会長のご主人であるジロー前会長が亡くなる前にケイ会長から聞いた話にジロー会長から蝶々の中で彼を探すよう言われたそうです。私はこの言葉をいつも心にとめていました。

先に進み、私が初めて義理の父に会えた時の事です。修養科の講師を天理で終えたときでした。その朝私は京都の友人の教会で講話をする事になっていました。初めは楽しみにしていたのですが婚約者に会った際、婚約者の父親に会う日と重なったので面会に集中するために京都に行くのが少し億劫になっていました。しかしながら結局京都まで電車で行き友人に駅まで迎えに来てもらい教会へ向かいました。車を降り、歩いていると茂みからたくさんの青い蝶々が飛んできました。私



は直ぐにこれがジロー会長からの励ましである事に気付きました。お話を無事終え、昼食を頂き天理に戻りました。面会集中モードに戻り、期待と不安が入り混じった気持ちでした。天理駅に着き地下に自転車を取りに行きました。緑のないコンクリートの建物で自転車を押しながら上に上がっていると青い蝶々が後ろから飛んできてハンドルに止まりました。これもまたジロー会長からの励ましで、全部うまく行く事を後押ししてくれました。この講話が青い蝶々の様にどなたかの励ましになれば光栄です。

さて、私達はここで何をしているのでしょうか？ 私達人間は地球で生活をしています。教祖は私達に陽気ぐらしをするよう仰せられました。その為いつも陽気ぐらしの世界建設を促し信仰しています。私達は皆兄弟で親神様の子供であります。

私の息子と娘は二人ともバスケットボールをしています。娘はあるクラブに所属していました。多くのトーナメントに参加しているクラブでした。ある試合で、始まったすぐ後

にベンチに座っていた娘のカイラニが私達の所に走ってきました。まだ出てもない試合なのに苦痛表情で汗まみれでした。気分が悪いというのでどこが悪いのか聞きましたが分からないと言い、車に行きたいと言うのです。怯えた瞳でパニック状態でした。

妻が娘を車に連れて行き私はベンチに娘の荷物を取りにいきました。試合でミスをしたらどうなるのか恐れていたようです。チームの一人のコーチはよく怒鳴る人で、ミスをしたら罵るような怒り方をしていました。カイラニは怒鳴られるのが怖かったのです。私は彼女の気持ちを汲み取った時とても申し訳なくなりました。父であり子供を守る存在である自分が我が子を精神的苦痛な場所に連れて行ったのです。そのゲーム以降クラブには戻りませんでした。

初めはカイラニも友達と一緒にバスケットボールをするのを楽しみに行ってました。ただ楽しくバスケをしたくて入ったのにそれが苦痛へと変わっていたのです。そのコーチはいつも否定的な言い方で子供たちを教えていました。コーチの態度の悪さに同意しませんでした。指摘する気もなく、たくさんの子供たちが離れて行った理由がよく分かりました。しかし残る選手達もあり、練習に励んでいました。コーチの態度を否定的に見ていなかったのでしょうか。個々の受け取り方の違いであります。

親神様は私達に心の自由自在をお与え下さいました。この世には大きく分けて2種類のタイプの人々が存在します。自分ではできると信じる者とできないと信じる者です。そして、両者正しいのであります。

自分の心の中で感じる事だけが実生活にとって重要なのです。人が実体験を語る時、自分が解釈した見解で話をします。同じ仕事場でも一人は「仕事が多すぎて嫌いだ」もう一人は「いつも仕事がたくさんあってやりがいがある。必要とされている証拠だ」と言うかもしれません。2人目の方は解雇された経験があり、仕事のある有難さを知っているのか

もしれません。私達は皆色々な経験があります。そしてそれを過去と言います。私達のほとんどが過去に囚われて生活しています。過去の経験を恐れて自分の思い描く人生のために新しい挑戦や切り替えをしません。ですが精神的苦痛から逃れ自分のために過去の経験に囚われず、新しく人生を切り開いていかねばならないのです。

例えば10代の反抗期中に誰かから裏切られ傷つくと、子供は直ぐに壁を作り、また傷つけられる事を恐れます。皮肉にも愛情は私たちにとってとても大切なもので、だからこそ痛みが大きいのです。愛情を欲しているのに心に壁を作って他人を入れようとしません。人を受け入れなければ愛情を受け取ることも、またお互いに心を許して付き合う事も出来ません。これもまた過去の経験に囚われているからであります。

新しく切り替え前に進むには、自分が変わる必要があるのです。それ以外の方法はありません。私達はしばしばこうしたらいいのに、ああしてくれたらいいのにと他人の行動に腹を立てます。相手が改善すれば何も問題がないと。ですが、最大のミスは自分は何も問題がないと思っている事なのです。人生において起こってくる問題は自分が成長するための機会であり、それらは受け入れる準備ができている時にのみやって来ます。人生は勝手にあるのではなく自分の為にあるのです。自分の人生の価値を見出すのは自分自身であり、他人がどう思おうと起こってくる何事も有り難いと受け取る。それをたんのうといひます。教祖は「ふしから芽がでる」とお教えられます。困難な状況を素晴らしいお与えと受け取れたとき、心がもっと成長します。

真柱様の論達第4号に「(教祖は)成ってくる姿はすべての人々を成人へとお導き下さる親神様のお計らいであると論され、周囲の人々を励まされた。」とあります。

小話ですが、一人の母親が3歳の息子が遊んでる途中何回も頭をかいてるのに気付

息子と呼び頭をみました。地肌が見えないくらいに虫の卵で覆われていたのです。最悪にも一匹の虫が息子の頭から額へ這いつくばってきて母親は叫びました。

今何人の方がその感覚に陥りましたか？頭がかゆくなった方？鳥肌が立った方はいらっしゃいますか？信憑性はともあれ、考えるだけで身体は反応します。これが心の凄さです。過去の嫌な事を忘れ自分が築きたい未来を生きましよう！

幸せ？そうじゃない？どうして？心は自分の思いたいように思えます。幸せでないのなら、嬉しくなる事を思い浮かべましょう。起こってくる全ての事に感謝しましょう。親神様、教祖からのお与えであります。幸せになるためには自分で何とかしないとイケません！

私の知り合いにオーストラリアに住んでいるカイロプラクターがいます。彼は講演の指導もしていて、幸せになる選択をできる人です。彼の名刺には「Expect a miracle！」「奇跡を期待！」と書かれており、それ以外は連絡先も書かれていません。彼は会う人々にその名刺を渡します。ある時、アメリカからオーストラリアに帰る際に空港のレストランに行きました。お客さんは他に一人だけいました。彼はカウンターへ注文しに行きました。注文を取ってくれている女性にいつものように彼の名刺を渡しました。彼女は少し興奮気味に名刺を受け取ると、キッチンで働いている人達に前に出てくるよう言いました。彼等もまた名刺を見て興奮気味でした。そのカイロプラクターは皆に名刺を渡し、皆嬉しそうに笑っていました。

それを見ていたたった一人の他の客は何が起きているのか不思議に思っていました。彼はカイロプラクターに名刺について何が起きているのか聞きました。二人は一緒に席に着きそれぞれのゲートに向かうまで話をしました。連絡先を交換し、カイロプラクターはその名刺を渡しました。数週間後、レストランで会ったその人から email が届きました。



「空港で会ったあの夜、あなたは私の命を救ってくれました。妻が亡くなってから1年、何をしてもだめで本当に惨めでした。しかし、レストランの従業員があの名刺を貰った時の様子を見てあなたが何者か気になりました。あなたは希望を与えてくれました。あの日、私は色々な手続きを済ませ家に帰る所でした。妻を亡くした痛みを耐えきれず家に帰って銃で自殺する予定でした。しかしあなたに会った事で何かが変わりました。あなたが他人にもたらした喜びは素晴らしかった。命が救われました。」

カイロプラクターはその email をとても嬉しく思い、その人の役に立てたことを何よりも有り難く思いました。

劇的と言うまでもない話ですが、私にとっては少し奇跡的な事でしたのでお話させていただきます。私がアメリカ・カナダの青年会委員長をさせてもらっていた時の事です。ある夜サンフランシスコの近くにあるサンマテオに住む青年に話をしていました。青年会ではその当時伝道庁月次祭の前日の土曜日にイーストホールで青

年会員と集うバーベキューをしていました。その青年ロジャー（仮名）と話をしている時彼は友達を呼んで紹介してくれました。サンフランシスコから来てくれたジェローム（仮名）という青年で、二人共20歳くらいだったと思います。ジェロームと話し始めてると急に彼の目が輝き出し、「あなたを知っています。僕を救ってくれた。」と言いました。初めは何を言っているのかと思っていましたが彼が続けて「昔良く日本街で話しかけてくれましたよね。ありがとうございます。」と。

それで気付きました。私はサンフランシスコの日系アメリカ人コミュニティにしょっちゅういました。日本街ではいつもたくさんのイベントが開催されていて賑わっています。子供の日、桜祭り、日本街ストリートフェア等の色々なイベントを手伝いました。

その色々な行事中にジェロームをよく見かけたのでした。いつも彼の母親が特定の場所でジェロームに何かをお願いしては自分は他の用事に行くと言うような感じで。ジェロームをコミュニティで見かけるようになったのは多分彼が8歳か9歳くらいの時だと思います。

彼はいつも母親に対して態度が良くなく、話を聞いてのるか聞いてないのかはっきりしない様子でした。彼のそばを離れる際に母親はいつも苛立らしそうに嫌な顔をしていました。推測ですが、彼の母親はシングルマザーで息子とのギクシャクした関係に悩んでいるようでした。母親が去った後、私はジェロームに話しかけました。彼の母親が言いたかった事、彼をととても大切に想いいつも安全に楽しく過ごせるようにという思いで言っているのだと説明しました。ジェロームは笑みを浮かべる事なく私の方を見ました、「この人は一体誰？」と聞いていたでしょう。彼が私の話を聞いていたのか聞いてなかったのか、そんな事に関係なく彼に声を掛け続けました。彼に調子はどうか聞きますが返事が返ってくることはありませんでした。

それがどうでしょう、その土曜日向かいの

イーストホールで彼は私の話を聞いていて彼の母親を理解する助けになったと言うのです！彼は私に救われたと言い、それは大袈裟だと返しましたが、とても嬉しそうでした。彼だけでなく私も歓喜に湧きました。この400マイル離れた天理教伝道庁で再会させてもらったのです。彼は大人になっていました。自分が声掛けしていたあの機嫌を損ねたような少年だとは全く分かりませんでした。あの頃私は、ジェロームが母親の事を理解していない事を、それに母親が悩んでいた事を知っていました。だからこそ私は声を掛けつづけました。彼には聞く必要があり、話をしている間に私を見る事もなかった彼ですが私はやめませんでした。親神様、教祖がいつ私達を通して人々にお働きくださるのかは分からないのです。この上ない幸せでした。私を器としてお使いいだされたのです。

今は2025年の8月中旬。教祖140年祭まで半年を切りました。私達は皆人の為に役立つ資質や才能があります。親神様、教祖のようぼくとして陽気ぐらしの世界建設に互いに励まさせて頂きましょう。

論達第4号に「親神様は真実の心を受け取って、自由の御守護をお見せ下される。」とあります。自分の内なる喜びを周囲に分け与えさせて頂きましょう。あの蝶のように人々に安心をもたらし心の支えになりましょう。自分自身が奇跡をもたらす存在になり、兄弟である周りの人達と共に陽気ぐらしの世界を実現しましょう！

ご清聴ありがとうございました。





伝道庁連絡



8 月 月次祭

祭主 庁長
 扈者 大西知 川上和海
 賛者 武本エディ 上杉浩司
 指図方 鳥澤繁實
 神殿講話 丹羽ハミルトン（英）

教会事情

イリノイ教会：任命願、臨時祭典願
 おはこび：2025 年 7 月 26 日
 教会長：高垣弘明
 奉告祭：2025 年 10 月 4 日
 シータック教会：任命願、臨時祭典願
 おはこび予定：2025 年 11 月末
 後任予定者：長尾照明
 奉告祭：2025 年 12 月 14 日
 ディレクターの住所訂正：台壇教会
 月次祭：第 1 日曜日

秋季霊祭

9 月 20 日（土）午後 7 時より秋季霊祭を執り行いました。今回は、中土幸子セントラルコースト教会 5 代会長の霊様を合祀致しました。

教会長資格検定講習会

9 月 27 日よりの教会長資格検定講習会の受講予定者は、早々にアメリカ伝道庁までご連絡下さい。尚、8 月末時点で受講者が 5 名未満でしたので、このたびの講習会は通訳・取り出しにて行われます。

立教 189 年 1 月末教人資格講習会

教会長資格検定講習会開催日変更

願書受付日：1 月 23 日、24 日（従来通り）
 開催期間：教人資格講習会
 【変更前】1 月 27 日～2 月 10 日 →
 【変更後】2 月 1 日～15 日
 教会長資格検定講習会
 【変更前】1 月 27 日～2 月 16 日 →
 【変更後】2 月 1 日～21 日

天理教語学院（TLI）おやさとふせこみ科出願

出願資格：次の条件（教育課程、立場、日本語能力、進路）をいずれも満たしていること。

1. 本国で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者。
2. 海外の教会長・布教所長の子弟、またはそれに準ずる者で、入学時によろぶくの者。
3. 本校日本語科卒業（見込み）者を含め、入学時に「日本語能力試験 N3」相当以上の日本語

力を有する者。

4. 卒業後、将来自国においてお道の用務に従事する予定の者。

出願書類：天理教語学院事務所で頒布（1 部 500 円）

出願期間：2025 年 10 月 1 日～10 月 31 日 但し、

日曜日、祝祭日は除く（10 月 26 日は午

後より受け付ける）上記の期間以外は、

いかなる理由があっても受け付けない。

教祖 140 年祭帰参報告書

アメリカ伝道庁としての教祖 140 年祭帰参報告書を作成しましたので、帰参予定の方は 10 月 1 日までに報告書の提出をお願いします。尚、右の QR コードより、Google Form にても提出可能です。



教祖 140 年祭【特別展示】

今秋より、教祖ゆかりの品を中心とした教祖 140 年祭「特別展示」を開催

日程：10/25・26、11/8・9・15・16・22～26・29・30、12/6・7・13・14・20・21・25・26

毎月 26 日は午後 1 時より開催

10/25 は午前中のみ開催

立教 189 年（2026 年）の開催は後日お知らせ

時間：午前 10 時～午後 3 時まで

場所：おやさとよかた南右第 2 棟

天理教ホームページをご確認ください（日本語のみ）。

<https://www.tenrikyo.org/se140/>

教祖 140 年祭後の教会長御招宴

対象：直属教会長を除く全教会長 ※御招宴時点

日時：2026 年 1 月 28 日～2 月 1 日正午～13 時 30 分

※いずれかの日にちに 1 回出席

- ・ 海外教会長は、1/28 の出席になっています。
- ・ 通訳の不必要な海外教会長で 1/28 以外に直属としての割り当てがあれば、その日でも出席可能です。その場合、各々より直属教会に変更を願って下さい。通訳の必要な海外教会長は、1/28 に出席予定。通訳の不必要な海外教会長は、割り当てがあれば 1/28 以外でもよい。
- ・ 案内状は 8/25 に直属担当者に配布予定です。

教祖 140 年祭 JR 天理教団体割引について

天理教おちばがえり団参券とは別に、2025 年 9 月 1 日～2026 年 1 月 31 日までの期間、8 人以上の団体が対象となる割引がございます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

JR 天理教おちばがえり団参券の新区間について

教祖 140 年祭に向けた特別措置として、2025 年 9 月 1 日～2026 年 1 月 31 日までの期間、JR 団参券に「京都-天理」の新コースが追加されます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

天理大学国際学部日本語学科入学案内

天理大学国際学部日本語科（留学生対象）にて日本のことを学びたい方は、以下の URL をご参照下さい。

『入試情報サイト』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/>

『大学案内』『入試ガイド』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/request/>

『日本学科留学生＜国外在住＞選抜入試概要』

https://www.tenri-u.ac.jp/ent/system/jp_int_etc/

入学課：Tel +81-743-62-2164、Fax +81-743-63-7368

E-mail, nyushi@sta.tenri-u.ac.jp

尚、海外受験の場合には、来日の必要はなく、書類提出のみで受験できるとのことです。

立教 189 年 1 月と 4 月の別席に関して

教祖 140 年祭前後の 1 月や御誕生祭前後の 4 月は、別席者の増加が予想されることから、事前にライブの日時を決めています。天理教ホームページの「別席外国語スケジュール」、または海外部のホームページの「別席外国語スケジュール」から、予定をご確認ください。



天理教ホームページ



海外部ホームページ

伝道庁人事

- ・ 2025 年 8 月 27 日、林ひろみさん（名東）は女子青年を辞退しました。
- ・ 2025 年 9 月 2 日、中田扶子（もとこ）さん（本部）が女子青年として着任しました。右写真



各会連絡

ふしん委員会

- ・ 故障しているスプリンクラーのコントロールパネルを交換します。

布教委員会

・ 7 月より教会長・布教所長・出張所長による伝道庁月次祭当番を、再開しております。11 月までの当番を以下の通りお知らせいたします。

9 月：中富淳次郎、上杉浩司

10 月：文岡邦人、渡邊京子

11 月：国領ロバート、平井信乃、丹羽ハミルトン

・ 10 月 25 日に回廊拭きひのきしんを行います。

帰参の方々は、朝づとめ 45 分前（午前 5 時 30 分）に、南礼拝場後方東側にご集合下さい。

・ 11 月 15 日（土）の午後、よふぼくの集いを開催致します。8 月末に行われた原典勉強会より、「おふでさき」の講義を拝聴し、引き続き練り合いを行います。また、夕づとめ後には、懇親会を計画しております。

受付：午後 1 時 30 分

勉強会：午後 2 時開始（4 時 30 分までに終了）

練り合いグループ作成のため、事前に Google Form を送信しますので、必要事項のご記入の上、ご提出下さい。

教化育成委員会

・ 今年の 12 月に開催される「おやさと練成会事前講習」の対象者に連絡をとっています。受講生が「TSA 冬季練成会」にも参加できるよう 12 月 28 ～ 30 日の期間で開催予定です。

・ 12 月の「おやさと練成会事前講習」と来年夏の「おやさと練成会」で男性のカウンセラーをつとめられる方を探しています。

・ TSA 冬季練成会は、12 月 26（金）～ 12 月 29 日（月）の期間で開催されます。

内容：講話、餅つき、スキー等

申込用紙は近日中に配布致します。

翻訳委員会

・ 通訳者ワークショップ

10 月 18 日（土）午後 1 ～ 3 時 於：MP ホール 2 階会議室

広報委員会

・ 教祖 140 年祭に向けて活動している方々の情報を「一れつ・ニューステター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々への活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先

川上 kamishuyo@hotmail.com

林 takhayashi@gmail.com

・ 伝道庁ホームページは、管内の皆様にご活用いただけるように作成し、また常にアップデートを努めております。是非、伝道庁ホームページをご覧いただき、また周りの方々へ紹介いただきますようお願い致します。また、Domain Name も Tenrikyo.com から TenrikyoAmericaCanada.org に変更されております。

Future Path 委員会

- ・8月30、31日、講師に東馬場郁生 生理大学教授と林孝彦 アメリカ ウェスト会長を迎え、原典勉強会が開催され、62名が参加しました。
- ・9月2日に、布教委員会と教化育成委員会の協力を得て、教会長、布教所長、出張所長夫妻、また後継者を対象にアンケートを実施しております。(オンラインのみ) アンケート結果は、より良いプログラムにするために活用させていただきます。

婦人会

- ・地区総会
サンフランシスコ地区総会
9月27日(土)10時30分 於：タイタン教会
ロスアンゼルス地区総会
9月28日(日)10時 於：アメリカ伝道庁
シカゴ地区総会
10月26日(日)10時30分 於：ミッドウエスト教会

少年会

- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。
- ・鼓笛隊員募集中！鼓笛隊は、仲間と共に一手一つという教理を体得しながら、おつとめに役立つ音感・リズム感が身につく活動です。是非ご

参加ください。

- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、【moto1884@icloud.com】までお知らせ下さい。

青年会

午後1時より本部中庭で開催されます。アメリカ青年会では、参加される方に交通助成を検討しています。助成の申請、お問い合わせは下記のアドレスまでお願いします。

seinenkainorthamerica@gmail.com

- ・アメリカ青年会の活動に関して、意見やアイデアを募集しています。

seinenkainorthamerica@gmail.com

NYセンター

- ・9/28 秋季霊祭
- ・10/19 ヤードセール

お詫びと訂正

先月号(8月号/933号)の神殿講話において、教会名に誤りがございました。4頁(WEB版では5頁)に「ノースアメリカ教会」と記載しておりましたが、正しくは「ノースアメリカ教会」です。関係者の皆様ならびに読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

大人の節目、教祖140年祭に向けて

～サンフランシスコ・サクラメント地区～

9月1日にサクラメント・サンフランシスコ地区の共同主催で、恒例の「Tenrikyo BBQ Picnic」が開かれました。2002年から続いているこの行事には、今年は50名をしのぐ大勢の方が参加してくれました。特に、若い家族の方々が小さいお子さんたちを連れてこられ、とても賑わった時間をともに過ごすことができました。今年は特に持ち寄りの食べ物が御馳走となり、参加者の皆さんに喜んでいただきました。



天理教原典勉強会

去る8月30日～31日の2日間、伝道庁にて原典勉強会が開催されました。この勉強会では、『おふでさき』『みかぐらうた』『おさしづ』の三原典を対象に学びが行われました。セミナーの目的は、(1) 原典に対する基本的な理解を深めること、(2) 原典の教えを日々の判断や心の持ち方に活かす方法を学ぶことでした。

全米各地から62名の参加者が集い、講義とディスカッションを交えた充実した2日間となりました。講師は、天理大学の東馬場郁生教授と、アメリカエストウ教会長の林孝彦先生がつとめられました。

参加者の関心の高さから、会場は終始熱気と活気に満ちていました。セミナー終了後に実施されたアンケートでは、非常に高い満足度と、今後も原典の勉強を継続したいという意欲が示されました。





WE'RE ONLINE!

www.TenrikyoAmericaCanada.org

Stay Updated! Scan the QR code with your camera phone.



携帯のカメラでQRコードをスキャンして、アメリカ伝道所最新のウェブサイトをチェックしてください!

CALENDAR



tenrikyoamericacanada.org/events-calendar

BLOG



tenrikyoamericacanada.org/blog-timeline

NEWSLETTERS



tenrikyoamericacanada.org/publications

SERMONS



tenrikyoamericacanada.org/sermons

OYASAMA-INSPIRED STORIES



tenrikyoamericacanada.org/stories-inspired-by-oyasama

少年会総会

去る8月16日、第49回総会が開催されました。午前中はおつとめまなび、式典。午後からは「夏祭り」と題したお楽しみ行事が行われ、参加した47名の少年会員は、ゲームブース、アイスクリーム、綿菓子など、夏のひと時を満喫しました。





TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

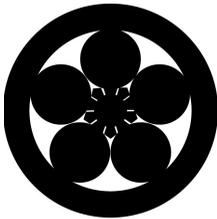
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.